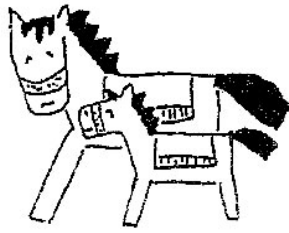


お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと



令和5年 1月 No. 338

〒760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松第二保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<https://oumanooyako.com>



(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		1月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
1月 6日 13日 27日	金	ヨーガを楽しむ会 14:30～16:00	寒い時こそ体を動かそうと 熱心に取り組んでいます。
1月 20日	金	香川みすゞさんの会 11:00～13:00	お正月遊びをした後、みんなで昼食を共にしながら 思い出話をしませんか？(準備のため1/17までに要予約)
1月 21日	土	子育てに役立つ小物づくり 14:00～16:00	紙コップでいつでも遊べる小物づくりをします。
1月 16日 23日	月	体験保育 15:00～17:00	みんな成長し、おしゃべりや色ぬりも上手に なりました。みんなで色々体験しましょう。
1月 19日	月	こうさぎおはなし会 15:00～16:00	お正月をむかえ、新年のお話は 何でしょうか。楽しみです。
1月 20日	金	自然の中の遊び体験 13:30～15:30	竹パンづくりをしますので 地域の方も親子でご参加ください。

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して  
いますので、親子でご来園下さい。  
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00  
しつけや子育てについての悩み、保育園生活  
入園・見学についての相談もどうぞ。



金子みすゞ童謡全集⑤  
「さみしい王女」上より

山路に散ったカルタは  
誰がとる。  
むべ山ならぬこの山かぜが、  
さっと一度にさらってく。

山路に散ったカルタは  
誰が読む。  
黒い小鳥が黒い尾はねで、  
ちちツ、ちちツと啼ないている。

山路に散ったカルタは  
なんの札。  
金と赤の落ち葉に、  
虫食いの流のあと。

やまみち  
山路に散ったカルタは

落ち葉のカルタ



☆今月の内容 — ・こどもマスク推奨に思うこと 普光院 亜紀 (保育を考える親の会代表)  
・無知の知、食べ物の好き嫌いについて 「保育界」より



## 子どもマスク推奨に思うこと

普光院 亜紀

子どものマスク着用については、WHOが「5歳以下の子どもには必ずしも必要ない」としていることや、日本小児科学会が特に2歳未満児のリスクを指摘していることなどをふまえ、厚生労働省も一律には求めない方針を示してきました。ところがこの2月、新しい方針が打ち出され、議論が噴出しました。

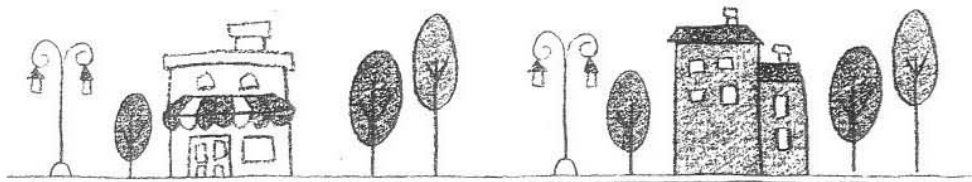
### ■知事会が子どものマスク着用を提案

全国知事会は2月3日、後藤厚生労働大臣とのオンライン意見交換で、2歳以上児のマスク着用を国として勧めるように求めました。このことが報道されると、ネット上には専門家などからの反対意見が続出しました。翌日、政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の提言は、「2歳以上」という年齢の明示を避け、「発育状況からマスクの着用が無理なく可能と判断される児童については可能な範囲でマスク着用を推奨すること」と提言しました。

私はこの一連の流れを見て、全国知事会がなぜ突然、幼児のマスク着用を言い出したのかが気になりました。

急激な感染拡大で、保育園やこども園の休園が相次いでいることは社会全体に新たな打撃を与えていると思います。小さな子どもをかかえる働き手が身動きとれなくなり、医療も含むさまざまな社会経済活動が立ち行かなくなっているのです。

奇しくもコロナ禍により保育か社会の諸活動を支えていることが広く実感される事態になってしまいました。しかし、知事さんたちの発想が「保育が止まると社会経済活動が滞る」→「子どもにマスクを!」となったのだとしたら、少し残念です。実際どういう議論だったのかは知りませんが、小さな子どもたちの生活や発達を理解しているとは思えない提案でした。



## ■専門的な判断が再提示される

2月8日、東京都医師会の定期記者会見の場で、小児科医の川上一恵氏が幼児のマスク着用について、

- ・心肺機能への負担が大きい。子どもは運動量が多く、マスクを着用することで十分な酸素が取り込めず息苦しさを感ずる。
- ・嘔吐を起こしやすく、マスクの中に吐いてちっ息するおそれがある。などの懸念を述べました。

まさに保育現場の皆さんが実感しておられることだろうと思います。保育者からは、マスク着用は5歳でも難しい、子どもがはずして放置したり取り違えたりすることが心配、子どもの体調の判断やコミュニケーションに支障があるなどの声が聞こえます。子どもは苦しかったり不安だったりしても、自分で伝えられない場合が多いことを念頭におく必要があります。

2月15日、厚生労働省は『保育所等における新型コロナウイルスへの対応にかかるQ&Aについて』を改訂しました(第十三報)。その内容を見ると、「一人一人の子どもの発達の状況を踏まえる必要があることから、マスク着用は一律に求めない」と明記しています。さらに、2歳未満児には奨められない。2歳以上児も、保護者の希望により着用させている場合でも、息苦しさを感ずていないか、体調不良、嘔吐などはないかに注意する必要がある、調子が悪い場合、持続的な着用が難しい場合は外す。午睡時には着用させない。などなど、どちらかという着用に消極的な記述が並んでいます。

しかし、この文書を見ることのないであろう一般社会の人々は「子どものマスク着用を推奨する」という国の発表を鵜呑みにし、保護者や保育施設が子どもにマスクを着用させないことを批判的に見る恐れもあります。自治体や保育施設はもちろん、地域の人々にも、一度このQ&Aの内容を周知する必要があると思います。

(保育園を考える親の会代表)



## 無知の知

近年の日本は、戦前の「精神主義」への反省からか、「科学信仰」とも言える言説に世の中が振り回されているように思う。コロナ問題に対して「感染症の専門家」の方々が、検証を経ていない仮説を、「正解」として社会に提案されているのは、かなり傲慢なことなのではないだろうか。そして「制度の専門家」の未熟な政策論にも「人間の傲慢さ」を感じるのは、私だけではあるまい。

「無知の知」という言葉は、難しい言葉であるが、自らにそして社会に対しても、「静まって考える」こと、「謙虚に思索すること」を求め、自戒する言葉であるように思う。「観念論」を直ちに現実には当てはめようとするものではなく、人々が蓄積してきた経験を、丁寧に反復しつつ、実践を改善していくことであるように思う。

## 食べ物の好き嫌いについて

白梅学園大学名誉学長の汐見先生によると、子どもに食べ物の好き嫌いが起こる原因として、ひとつは遺伝的に味覚が過敏で、他の子どもに比べて野菜独特の苦さ、いわゆる草っぽさを強く感じてしまうこと、もうひとつは0歳の頃、特に離乳食の頃に食べ物に関して何らかの嫌な思いをした経験があることが考えられると分析しています。

今は食材がとても豊富です。また、食べ物の好き嫌いがあっても、調理方法、見た目、周りの環境は味覚に大きくしますし、成長と共に嗜好は変化していきます。それにある日突然食べられるようになる子どももいますので、食べられなくても無理強いをせず、長い目で見守って行きましょう。そして少しでも食べられたらほめて励ますことが大切です。

ママさん110番（電話相談）だより

